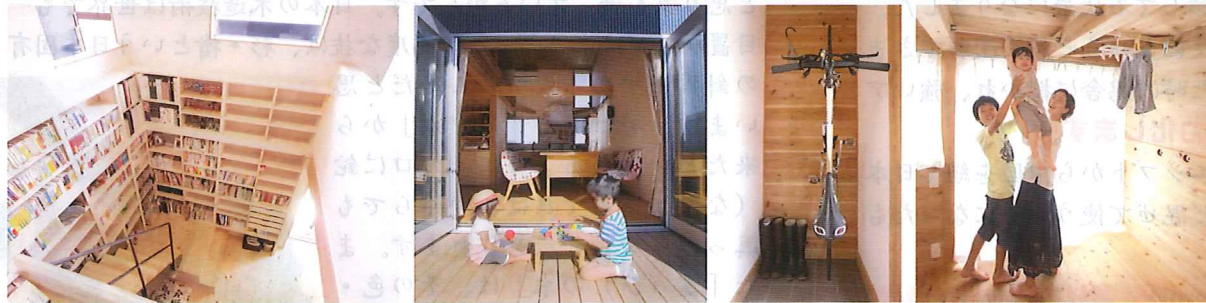




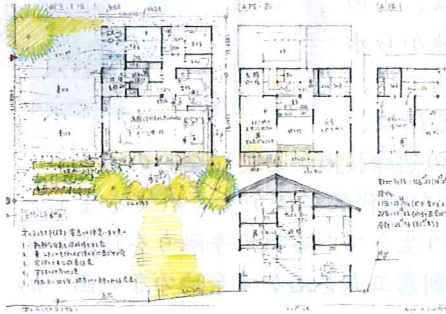
生活クラブの家づくり オルタスクエア(株)

# 住まい通信 No.28

mail: info@a-sq.co.jp HP: http://www.a-sq.co.jp 隔月発行



ハウスメーカー  
**オルタスクエアは量産型住宅にはできない家づくりをしています**



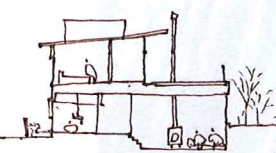
オルタスクエアのつくる「家」は、量産型住宅とは違い、その家に住む人、一人一人の暮らしを支える家にするため、家づくりの経験豊富な一級建築士が、お客様と打ち合わせを何度も重ね、ともに考え、知恵を絞って、世界でたった一つのプランを創ります。そして、信頼できる工事のプロが施工に力を注ぎ、造り上げます。知恵や思いや技といった、人のエネルギーがたくさん詰め込まれた家なのです。

また、長期優良住宅、次世代基準の断熱性能など、すべてに対応可能です。その中から大切な順番、建物性能なのか、最新設備なのか、はたまた床面積か、自然素材なのか等で、予算を振り分け、コストバランスを調整することが可能です。コスト予算組みは、量産型住宅のように標準仕様にオプションをどんどん積み上げ、費用を高くする方法は取りません。



**本物の木の家だからできること**

本物の木を使った家では、必要な時に手すりをつけたり、フックをつけて絵を飾ったり、家具を固定したりと、無垢木材の床壁ゆえの柔軟性があります。家族の成長に合わせて家も変化していくことを見越したオルタスクエアの家づくりには欠かせない大切な材料です。また、経年により色褪せていく新建材とは違い、年を追うごとに材の色合いに深みがあらわれ、家の味わいが増します。



## 『構造見学会』のご案内



**3月4日(土)13:30~14:30**

場所: 鎌倉市S邸  
交通: 江ノ電「七里ガ浜」駅より徒歩5分

オルタスクエアの工事現場を直接見られる機会です。新築見学会では見られない、建物を支える基礎や土台、構造材、耐震金物、継手などを直接見て、建物の安全性の確認ができます。オルタスクエアの建物の耐震性能について知りたい方は是非、この機会を逃さずに見ていただきたいと思います。

## 短期集中『土地探し講座』全2回



オルタスクエア  
不動産担当:  
對馬哲郎氏

参加費: ¥500/回

第1回 **3月11日(土)** 10:00~12:00  
第2回 **4月8日(土)** 10:00~12:00

土地を購入するには、そこに建てる建物を見通しての資金計画が必要です。また、土地の条件によってどのような建築が可能かも左右されます。一級建築士の資格を併せ持つ不動産担当者が、土地探しに必要な知識を2回にわたってお伝えします。



参加ご希望等、お問い合わせはオルタスクエア(株) 045(476)1105 または mail: info@a-sq.co.jpまでご連絡下さい。



## 国産「無垢材」の力

自然木材は、吸放湿のスピードはゆっくりしているものの、大変大きな許容量を持っています(厚さ1.5cmのスギ無垢床材で、**1㎡あたり約300gの水分を吸放湿**。兵庫県農林水産技術総合センターの2008年試験結果に基づく)。

オルタスクエアの家では、スギ・ヒノキの無垢材が大量に使われているため、吸放湿の力が大きく、**梅雨時は室内で洗濯物を干してもすぐに乾き**、冬の乾燥時に加湿器が要りません。

スギ、ヒノキがそれぞれ持つ心地よい香りは、樹木が自分の体を菌や虫の攻撃から守るためのものですが、人間や哺乳類にとっては**気持ちをリラックスさせる効果があります**。様々なテルペン類が合わさってこれらの香りをつくっています。スギであれば、クリプトメリオール、 $\delta$ -カジネン、 $\beta$ -オイデスマールなど。ヒノキであれば、 $\alpha$ -ピネン、ボルネオール、 $\gamma$ -カジネンなど。

高度経済成長期以降、大量の輸入木材におされ、国産林業は衰退の危機に直面するようになりました。しかし、今あらためて、国産のスギ・ヒノキが住まいとして使われることで人の健康を支える力を発揮することがわかってきました。一方、林産地でも健全なスギ・ヒノキを育て続けるには、様々な広葉樹も一緒に育つ森が必要であることが分かってきました。健康な木の家をつくりながら、**国内林業と森林の再生に関わっていきたいと思います**。



和歌山県山長商店の松本氏 長くこの森を育て管理し、温かくも厳しい人

## 漆喰・珪藻土



### ■ 漆喰

漆喰の主成分は消石灰(しょうせっかい)=水酸化カルシウム( $\text{Ca}(\text{OH})_2$ )です。サンゴや貝など海の生物の石灰質の殻(炭酸カルシウム  $\text{CaCO}_3$ )が堆積して石灰岩になりました。これを強い火で焼いてから水に反応させると消石灰ができます。鳥インフルエンザが発生した時に鶏舎に撒かれ、強いアルカリ成分により**ウィルスを無力化します**。

この消石灰の建材利用が古代エジプトから中国を経て日本に伝わり、海草の糊や麻すさなど混ぜて使うようになったものが漆喰です。

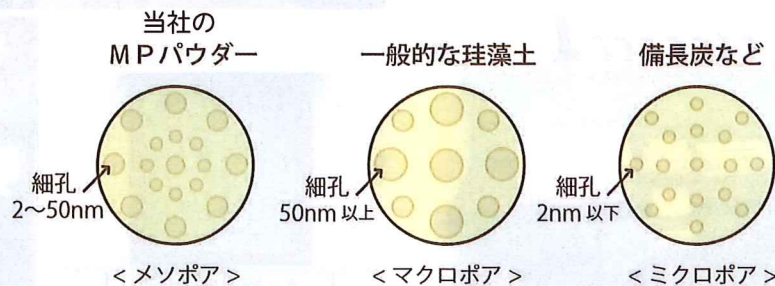
**漆喰の調湿機能は、厚さ2mmの壁塗りで1㎡あたり約60gほどですが、アルカリ成分によるカビやウィルスの抑制作用が大きく、パン粉を入れた容器に漆喰スティックを入れておくだけで、カビを発生させません。**

### ■ メソポア珪藻土

珪藻土は、ガラス質の殻(二酸化珪素  $\text{SiO}_2$ )を持つ植物性プランクトンである珪藻が、海や湖で堆積したものです。**殻には多くの細孔があります**。

珪藻土が壁材として高い調湿機能を発揮するには、珪藻土の殻にある細孔の大きさが非常に重要です。ビールや清涼飲料などの濾過材として使用する場合は、穴の大きさが50nm(ナノメートル)以上でかまいませんが、**壁材の場合は2~50nm(ナノメートル)でないと、湿気を吸放湿する性能が十分に発揮されません**。この適正なサイズの穴は「メソポア」と名づけられています。

オルタスクエアの珪藻土は北海道稚内産のメソポア珪藻土で調湿性能が高く、配合80%のもので**1㎡あたり約155gの水分を調湿します**。また、**消臭効果も優れています**。



## 信頼の絆



**オルタスクエアの大工は口をそろえて「こういう事が自分たちのやりたい仕事」といいます**。それは、大工自らが住みたいと思う家を造っているからです。日本の木造技術は世界でも一目置かれていますが、この高度な技は、杉・檜という日本固有の針葉樹があったからこそだと思います。杉は名が「直ぐ木」から来たといわれるように、木口に鉋(なた)を当てれば、いくらでも真っ直ぐな柱や板を作れます。また「霊(ひ)の木」は、その色・香り・耐久性から宮殿・社寺を造る最高の木材と讃えられてきました。しかし、これらの木は、山の中で陽を浴び風を受け大地から水を吸って育ってきた生き物です。それらを建物に組み立てるには、木材の性質を熟知した大工の熟練技術が必要になるのです。



戦後、住まい造りに様々な近代的工法が生まれてきましたが、残念な事に杉・檜という生きている材の手触りを住まいから消し去り、また、大工の創意工夫を活かす余地のない画一的な工業技術になっていきました。

しかし、今、若者の中で、本物の大工になり、本物の杉材・檜材を活かした仕事をしたいと思う人が増えています。オルタスクエアの住宅現場では、若者たちが棟梁の厳しい指導のもと、体で仕事を覚えています。彼らの真剣な仕事から、**林産地、つくり手、住まい手をつなぐ「信頼」の絆が広がっています**。オルタスクエアの家には、杉や檜の「木の力」だけでなく、多くの人の「信頼の力」が隠れています。

